

令和6年度岩手県立病院臨床心理士会部門学会

特別講演

「医療におけるナラティブ・セラピーの活用」

ルバート心理カウンセリング 久保山武成 先生

ルバート心理カウンセリング 代表

公認心理師、臨床心理士

日本ブリーフサイコセラピー学会常任理事

略歴: 秋田赤十字病院、国立精神・神経医療研究センター、東京大学医学部附属病院、東京大学 医学部 特任助教を経て、2019年7月より秋田市中通で心理カウンセリングオフィスを開業。



医療現場では、精神分析や認知行動療法(CBT)を用いて臨床を行っている方が多く、これらは我々の領域での主流となっています。これらのアプローチは、病因の理解や症状の改善に重点を置き、患者の問題を特定し解決することに焦点を当てています。その有効性は数多くの研究によって示されていますが、すべてのケースに対応できるわけではありません。

例えば、慢性的な疾患や障害を持つ患者がその状況を受け入れられないと感じる場合、これは単なる認知の偏りとは言えないかもしれません。また、死に直面した患者が抑うつ状態に陥った場合、幼少期までさかのぼって原因を探ることに抵抗を感じることもあります。総合病院で勤務していると、このような場面に直面することがしばしばあるのではないのでしょうか。

このようなケースでは、病因の理解や症状の改善がクライアントのニーズの中心ではないのかもしれませんが、そこを提供するのが我々の仕事だというアイデンティティを持っていると、「ただ話を聴くしかできない」と無力感を感じる場合があります。

ナラティブ・セラピーは、このようなケースに対して効果的なアプローチの一つです。人々が自分の人生の物語をどのように構築し、それを語るかに焦点を当てています。物語の再構築や再解釈を通じて、クライアントが新たな視点や意味、希望を見つけることを目指し、肯定的な変化を促します。

このセッションでは、ナラティブ・セラピーをテーマに取り上げ、参加者がその理論を理解し、実践を体験できるようなプログラムを用意しています。まず理論的背景である社会構成主義を学び、その後、事例検討を通じてリフレクティングプロセスのワークを行います。「ただ話を聴く」のではない、新しいアプローチを体験しながら学ぶ機会にする予定です。

* 参加いただける方: 特別講演は岩手県立病院総合学会参加者、事例検討は岩手県立病院臨床心理士会員および参加申し込みされた臨床心理を学ぶ学生となります。